

## 編集後記

新型コロナウイルスの第7波が収束に向かいつつあり、街中では外国人観光客も見かけるようになった。先日、世界保健機関（WHO）は、「まだ終わりを迎えているわけではないが、徐々に見えつつある」と発表している。まだまだ予断を許さない状況ではあるが、明るい兆しがほんの少し見えつつあるように思う。

ただし、コロナ前と同じようなライフスタイルに戻るわけではなく、アフターコロナにおける新しい働き方や生活が生まれ、推進されることが予測される。私たちが属する大学界においても、教育や研究といった業務への取り組み方も改めて考え直さなければならぬだろう。正直、自分自身もその答えをまだ見出しておらず、悶々とした日々を過ごしている。自分のなかでの今後の課題である。

さて、今回お届けする『和光経済』第55巻第2号は、松永巖先生の追悼号となっております。ご投稿いただきました先生方には、心より御礼申し上げます。

最後に、松永先生へ謹んで哀悼の意を表し、本号『和光経済』第55巻第2号を捧げ、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(2022年10月 岩見昌邦 記)

## 和光経済 第55巻第2号

---

2022年12月13日 印刷

2022年12月20日 発行

発行者 清水 雅 貴

制作 八千代出版

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-2-13

---

発行所 和光大学社会経済研究所

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘 5-1-1

---